令和８年度　第１回生駒市社会教育委員会議録（要約筆記）

１　日　時　令和８年７月14日（火）　午前10時00分～午前11時35分

２　場　所　生駒市役所 大会議室

３　出席者

（委　員）浦林直子委員・大谷裕美子委員・岡島保弘委員・上武敏一委員・久保文枝委員・清水泰之委員・白井一三委員・大長香代子委員・中畑直実委員・連靖和委員・山上哲委員

（事務局）原井教育長・南口生涯学習部長・甫田生涯学習課長・堀口生涯学習課長補佐・綾野生涯学習課専門官・
西野図書館長・入井図書館北分館長・中川図書館南分館長・谷江駅前図書室長・
西スポーツ振興課長・大畑スポーツ振興課長補佐・
生涯学習課生涯学習係　田中係長・山本・松井・金田

（欠席者）位坂美知子委員・中田希子委員

（会議の公開・非公開）公開

（傍聴者）なし

４　議事内容

(1)教育長あいさつ

(2)委員紹介

(3)議長、副議長の選出について

(4)令和７年度「社会教育基本方針及び重点目標」にかかる実績報告について

(5)令和８年度「社会教育基本方針及び重点目標」について

(6)その他

(1) 教育長あいさつ

(2) 委員紹介

自治連合会において、付属機関や会議への委員の推薦等について再考されたことから、今期から委員数が１名減になった。

(3) 議長、副議長の選出について

２年間の任期の始めにつき議長・副議長を選出し、全会一致で議長は学識経験者の大谷裕美子委員、副議長は生駒市校長会の久保文枝委員に決定。

（4）令和７年度「社会教育基本方針及び重点目標」にかかる実績報告について

■基本方針に係る令和７年度「社会教育基本方針及び重点目標」の実績報告について、各課より説明を行った。

「主体的に学ぶ「人」を育み、人と人がつながり支え合える「地域」を市民とともにつくります」

■令和７年度重点目標や事業についての質問や意見

中畑委員　　図書館のリニューアル事業についてお聞きします。私は所属がこども園でこどもたちが本を借りるのをすごく楽しみにしており、月１回おはなし会もしています。おはなし会の部屋はリニューアルしていないのでしょうか。

西野図書館長　多目的室をおはなし会も開催できる部屋にしました。こどもの本のコーナーも蚊帳のカーテンを吊って空間を仕切ることができますので、そちらの方でもおはなし会を開催しております。

中畑委員　　ありがとうございます。

（5）令和８年度「社会教育基本方針及び重点目標」について

■基本方針に係る令和８年度「社会教育基本方針及び重点目標」について、各課より説明を行った。

「全ての市民が主体的に学び、学びを通じて人と人がつながり支え合える地域をつくります」

■令和８年度重点目標や事業についての質問や意見

大谷議長　　令和７年度と８年度の重点目標を比べると、無くなっている項目も増えている項目もあるので対比させて見ていただくのもひとつの見方かと思います。図書館はいろんな事業の取組みをされています。生駒市には公民館がないのでそれに代わるような取組みが図書館でされていて、人が集まりやすいし、それと共に本に触れることができるプラス要素が出てくると思っています。たくさん取組みを考えて、いろんな対象者を見つけてそこに向けてのアプロ

ーチが積極的に行われていると感じています。

浦林委員　令和７年度最後の社会教育委員会議で基本方針についてみなさんでお話した中で、市民が主語になって「全ての市民が主体的に学び、学びを通じて人と人がつながり支え合える地域をつくります」という基本方針が定まったことが、令和８年度のスタートにあたって良かったと思っています。市民の全ての世代の人がいろんな機会に学びというものに触れることができることが本当に楽しみだと思っています。

行政機関である生駒市が、生涯学習の取組みを組み立てていくことがどうして必要なのかなといつも考えています。民間のカルチャーセンターでたくさんのプログラムが提供されています。夏休み前になるとこども向けのプログラムがたくさん提供され、いろんな学びに触れることができます。

もちろん、最近ではオンラインや、YouTube を見て勉強できたり、資格が取れたりということもあると思いますし、地域にいろんな小さな教室があって、学びの機会というのはたくさんあると思いますが、生駒市が生涯学習の機会を提供するということはこの基本方針にあるように、学びを通じて、地域の人同士のつながりや交流が生まれたり、その中で高め合いがある中で、豊かな地域であったり、温かい地域であったり、充実した地域であったり、まちづくりにつながっていくというところが、市としての生涯学習に取組む目的なんじゃないかと思います。講座に行って、知り合いができて友達や仲間になれる。何かあった時には、名前も顔もわかる関係性で支え合えるとか、場が変わって自分が先生になることもあるし、教えてもらうこともあるし、交流の豊かさの中からいいまちというのが生まれてくるのかなと思います。

基本方針の内容がこのようになって良かったということと、これからのたくさんのプログラムの中で交流が生まれて、豊かなまちが生まれてくることを期待したいと思います。

岡島委員　私も同じような感覚でいます。基本方針をまとめていただいてありがとうございます。中にある事業内容に関しても、令和７年度と比べて重要なところを簡潔にまとめていただいて見やすくなり、理解できました。

上武委員　本当に多岐にわたることをされており、それぞれの方が苦心していろいろなことにチャレンジしていることを思うと頭が下がる思いがします。継続している事業の方もどんどんブラッシュアップされていいものになっていると感じています。特に私は所属が商工会議所なので、「働く大人の週末ゼミ」とか、「多様な働き方を考えるセミナー」などは本当にありがたいことで、説明では人が集まらなかったとおっしゃっていましたが、引き続きお願いしたい。働き方は本当に多様で、みんなが同じ道に進むわけではないので、どういう仕事をして働いたら本人が幸せになるというところまで人生設計に関わってきますので、最初は参加者が少なくても根強く活動をしていただきたいと思っています。大人の週末ゼミも実際に働いている人に学んでほしいが、この主体的に学ぶということが、日々の仕事に追われて難しいところもあります。これもなんとか引き続きお願いしたいと思っている次第です。

清水委員　たいへん良くまとめていただいていると思っています。

先ほどから話を聞いていて、実績報告や計画は、目的に到達するための手段と思っています。目的を達成するために事業をやるけれど、報告するときには目標に向かってどんな課題があり、どんな成果があって、残っている課題は何かについて総括をしてほしかったと思います。何人集まったとかでなく、この事業が生駒市の社会教育の中でどういう位置づけにいるのかという評価・総括でなければ継続性がないので、令和７年度から令和８年度につなげていく視点での総括が聞きたかったというのが私の希望です。この主体的に学ぶ目標が富士山の頂上とするなら今何合目あたりまで市民の意識が来ているのかという総括がされなかったら、結局、単発的な事業に終わってしまうのではないかということを私は非常に危惧しています。

また、「主体的に」という話がありましたが、学校教育の中でうまく機能しなかったらかえって混乱を起こすのではないかと思った事例が２つあります。

１つは、ある小学校の運動会の種目のメインであった、華やかな踊りの沖縄ソーランが去年なくなりました。私の孫に何でなくなったのかを聞いたら、みんなで相談してやめたと言うんです。今まではおそらく学校の先生がある

程度決めていたと思いますが、今回はこどもにいつにしようかと相談してもらった結果、運動会はやめて参観日にしようということになったとのことでした。親からは何で運動会の沖縄ソーランがなくなったのか、学校の先生がさぼっているんじゃないかという声が多くあがりました。主体的にこどもに考えさせるという目的は評価できますが、社会教育と学校教育の間にギャップが生まれたというひとつの例だと思います。

また、私は 20 年間朝の挨拶に立っています。毎月 8 日はコミュニティスクールとの共同活動ということで児童会も一緒に来てくれていたのですが、今年の 4 月頃から来なくなりました。一緒に朝の挨拶に立っている人たちから学校はどうしているんだと聞かれ、こどもに尋ねたら、こどもたちで話し合いをして、今日はどこに立とうか等こどもたちが考えて決め、違う場所に立つことになったと教えてくれました。

この 2 つの事例から、「こどもたちに主体性を」と言って、こどもたちに考えさせている社会教育の意義を一般の人たちが理解していなかったら、このようなことが今後も起こるということを痛切に感じました。これからの社会教育と学校教育が共通理解を深めなかったら、かえって学校不信につながっていく可能性があり、今後「主体性」を考えるポイントになってくると思います。

もう 1 つあります。最近朝に立っていると、数人のこどもたちがカナヘビを持ってきます。こどもに聞いてみたら、こどもはやっぱり興味があるようです。カナヘビを持ってこられて嫌な人がいるかもしれないけれど、これはどういうものを食べるのか等を学校の先生と図書館に行って調べてみてはどうかと言いました。そしたら、周囲の人たちから学校にカナヘビを持って行くのはどういうことだと怒られましたが、こどもが自分の課題を見つけて、主体的に学んでいくことが今の教育の流れではないかと話したら、納得してくれました。こどもが主体的に課題を見つけて追及していこうとしている時に見守り、お互いに共通理解を深めることが社会教育の課題ではないかと思いました。

浦林委員　評価の話に関連してよろしいですか。清水委員が令和７年度の報告をいたたいた時の人数がどうだったとか次年度も続けていくという評価の視点についておっしゃいました。私もそれについて考えていました。第３次生駒市教育大綱の２ページの生駒市の教育の考え方についてしっかりと考えていただいた文章に「一人ひとりが地域や社会、地球規模の課題などについて学び、意見を表明し、行動を起こすことにより、新たな挑戦が生まれ、変革の推進力となっていきます。」「市民が直接参画できる機会や手段が生まれる時代でもあります。だからこそ一人ひとりが当事者意識を持ち、それぞれの置かれた状況、条件、能力に応じた責務を果たせるような社会を、教育を通じて実現していきます。」と書いてあります。また「ラーニング・コンパス 2030」というものがあり、これは学びの羅針盤で、「教育のゴールとして「個人そして社会全体のウェルビーイング」を位置付けています。」と書いています。今まで主体的に学んで自己実現というのが言われてきたけれど、「個人だけでなく社会全体の自由や幸せを実現できる人を育てるということが、これからの教育に求められています。」とはっきり書いてあります。

ということであれば、先ほど、清水委員がおっしゃったように、社会教育の報告におけるラーニング・コンパスの社会全体のウェルビーイングの視点からの評価は今までされていないのではないかと思います。どのように評価をしたらいいのかということを今年度考えていかないといけない。社会、生駒市の地域課題に対して私たちは考えて行動していかないといけないなという、人づくりになっているという視点が評価できていないのではないかと思うので、評価の軸をどこに持って行くのか、社会全体のウェルビーイングを考える視点を私たちは持っているだろうかと意識しながら私たちも考えて行動するとともに、この生駒市の社会教育の在り方として、今年度はみなさんと社会全体のウェルビーイングへの評価の在り方について考えていけたらいいなと思いました。

大谷議長　大切な意見だと思います。

何か指標を持つということは大切で、それがあって次のステップに進んでい

くことを教育大綱にお示しいただいているので、ここは大事に考えていかなければいけないと思います。

評価方法を考えていかないといけないのですが、社会教育は評価が難しいんです。見えるものではないところが大人もこどももウェルビーイングになっていくこともあるし、自分は気づいていないけれど、達成されているという事もある。見える化することはとても難しい。意識しながら行動したことについてお示しいただけるような形があれば私たちも学ぶ事ができると思うので、考えていきたい。

白井委員　今年度の基本方針３の総合公園体育施設のリニューアルについて、その計画の中で少しでもいいものを作るような努力をして欲しい。よろしくお願いします。

大長委員　私は初めて委員になって、芸術協会の代表として来ています。広報に生け花体験等について載せたら申込みがたくさん来るかと思ったけれど来ない。今までの参加者名簿を見ていたら知り合いの方に頼んで、その方たちが次々誘って 15 名の募集のところになんとか 15 名集まっている状況です。会場の芸術会館美楽来が坂の上にあるんですが、高齢者等、夏の時期は、坂を登ってくるのが大変なので困っています。たけまる号が平日のみで土日祝日はなく、タクシーを使ってほしいとまでは言えないので、バスがなんとかならないものかと思っています。

中畑委員　同じような意見になるかもしれませんが、いろんなイベントの企画があってすごく楽しいと思うし、親子で一緒に楽しむというところもあって、こどもたちの教育的に主体的な人間を育てるというところで、親子で楽しむということは親が連れていくということで、親に興味がなければこどもは連れて行ってもらえない。どの子もみんな楽しかったとか、こんなことがあるんだとか、算数教室なんか算数大嫌いだった子が滅茶苦茶好きになるきっかけになったとか、私はそんなきっかけをどんな子にも作って欲しいと思うんです。

令和 7 年度の「多様な働き方を考えるセミナー」で人を集めるのに苦労なさったと聞きましたが、興味がなかった親御さんでも連れて行ってあげようかなとそういう風に思うような広告の仕方やアナウンスの仕方とかを考えてもらって、一人でも多くのこどもたちの持っている「好き」の種をいっぱい育ててもらう社会教育であればいい

なと思っています。

連　委員　　私は子ども会を代表して来ています。われわれ子ども会も、こどもたちが自主的にやるイベントを考えながらやっているんですが、ただ集客はまだまだ足りない、それはなぜなのかということを自己反省をもとに総括をしなければならないだろうと私は思っています。

それと、市子連としてはジュニアリーダー、リーダー、あすなろ会、小中高校生の 100 名近いこどもたちを預かっています。その中で一番よくやっているのがワークショップで、こういうことをするんだけどどうしたらいいか話し合ってみんなの意見を聞きながらホワイトボードに全部書き出すようなことをやっています。こどもたちがそういった自主的に行動するということが一番いいんだろうと思うとともに、私はいつも言っているんですが、人間にとって大事なのはやっぱり優しさなんだよと言っています。優しさがあれば、他人も認めることができるし、自分自身も認めることができるんだよと言っているんです。社会教育でもそれが一番大切だということを言っています。 日頃の活動の経験からお話させてもらいました。

山上委員　　清水委員が 20 年間朝に立たれているとお聞きしましたが、私も 10 年間程立っています。車が登校中の列に突っ込むというような、新聞やニュースで取り上げられる事故が多かった時期に交通安全ということで民生委員と自治会で始めたようです。その後、学校でボランティア保険をかけていただいたり、地域学校協働本部の会議に招いてもらったりとつながりが生まれ、学校から認識していただいてお世話になっています。

そんな中でこどもとのやり取りも増えてきて、人によっては、体調不良のこどもがいたら車で送っていく場合もあるようです。ただ、どうしても地域の関係が希薄になっていますので、親御さんのことが私たちにはわかりません。以前、ひきこもりの子が学校へなんとか出てきたようなんですが、途中で行ったり来たりして、私の前で止まったことがありました。私たちは登校時間の大体 7 時半から 8 時まで立っているんですが、その子が止まったのは 7 時 50 分頃でした。今まで学校は 8 時から電話を取るということで、話す子であれば家の電話番号を聞いて私の携帯で家にかけて本人に代わることができるんですが、その子は黙ったまま止まっているので、10 分程

待ってから８時に学校に電話し、学校が保護者に連絡後、保護者が迎えに来てくれました。

今年の５月からは学校への電話が８時半からしかつながらないようになりました。私は仕事に行っていませんので、8 時半まで待っていても良いのですが、こどもにとってそれでいいのか。今後はどうしようかと思っています。

学校の先生の負担軽減も大事ですが、地域で社会教育的なことに関わっている者としては、こういうことがあるということを知っておいてもらえたらと思います。

大谷議長　具体的なお話を聞かせていただきありがとうございます。

清水委員　補足です。楓ちゃん事件が 2004 年の 11 月にあって、2005 年から始めて 20 年になります。声をかけてこどもに挨拶しようということで出発しました。声をかけて挨拶して返事してくれなかったら返事するまで「おはよう」と 19 年間言ってきましたが、それを変えなければならないようなことが起こりました。親御さんからもぜひ皆さんに伝えてほしいと言われていますので、この機会にお話しします。

4 月の学校が始まった頃、小学校ではなく、駅の方に向かう 3 人のこどもたちを９時半頃にたまたま見つけました。あるお母さんが前を通り過ぎて行き、しばらくしてから 3 人のこどもがついていきました。小学校と正反対の駅に向かっていたので、そのこどもたちに大きな声で「どこに行くの？」と声をかけたら、先に行ったお母さんが戻って来られて「今こどもたちに何をおっしゃられたのですか。」という質問を受けました。「実はこういう者で、こどもたちに声をかけていました。」と言ったら、怒られはしませんでしたが、色々と話してくださいました。そのこどもたちは駅から電車に乗ってフリースクールに行くこどもで、「このこどもたちのことを知ってくださっていますか。今不登校が増えています。このこどもたちは、うちのこどもたちも含めて、声をかけられることがしんどいんです。これからはやめてあげてください。何でこんな時間に行くかというと、ラッシュアワーが過ぎて電車が空いたからです。電車の中でもこどもたちは視線を感じ、それが不登校の原因になっています。あなた方は全員に声をかけておはようと言うけれど、そういうこ

どもがいるということ、それで不登校になっているこどもがいるということを知って、ぜひそのことを皆さんにも伝えていただきたい。」と言われました。それから私は変わりました。今まで声をかけて返事がなかったらだめだという評価基準がありましたが、それからは反省して、電柱に隠れてこどもたちが主体的に話してくれるように小さい声で「おはよう」と挨拶するようにしたら、こどもたちの方から逆に声をかけてくれるようになりました。声をかけられるのを嫌がって、私から離れて歩いていた子が「熱中症にならないでください」という手紙をくれました。この前はある女の子から塩飴をもらい、「あなたみたいに優しい子は初めてだから学校にもお母さんにも伝えたい。」と言ったら、「お菓子を勝手に持ってきたのは自分だから、絶対に伝えないでほしい。」と言うんです。20 年間立っていて初めてのことで感激しました。その子も 6 年間全然挨拶をしなかった子でしたが、私が黙っていても「おっちゃん、おはよう。」と声をかけてくれるようになりました。だから、これからは声をかけるときに対価を求めてはいけない、声をかける時に返事をしないのが悪いのではなく、そういうこどもたちもいるということを考えて挨拶運動をしないといけない、そのことによって不登校のこどもを作っていたかもしれないというのが 20 年間の反省です。ですから、今はほとんど私からは小さくしか声をかけていません。しかし、こどもたちから話しかけてくれることが増えてきました。私たちが今までやってきたことは間違っていたのかなと反省しています。

大谷議長　ご経験からのお話で、社会教育は時間がかかるものであるし、大人も保護者からいただいた言葉からそうなんだという気づきがあったりというところがあるし、学校の教育が大きく変わってきていたりするんですが、地域や社会教育ももっとアップデートしていかないと、学校と地域、社会教育とがリンクしながら進めていく部分、重なり合う部分がたくさん増えているけれど、そこへの理解度も社会教育に関わる者として、そして地域の者として学び合う機会も必要だし、受け入れることも必要になってくると今のお話を伺っていて思いました。

久保副議長　昨年度の実績報告を伺いながら、また今年度の方針を聞かせていただきながら、たくさんのイベントが行われていて、さまざまな世代の方の居場所が、学びの場があるということが幸せだと感じております。小中学校で学んだ児童、生徒がやがてこの生駒市で市民となって主体的に学んでいく、本当に小中学校での学びにある重責を改めて感じました。

今日は清水委員から具体的な事例をあげてお話を伺いました。学校の説明責任もしっかり感じましたし、連委員から「優しさ」の話が出ましたが、「優しい」という言葉の語源は「痩す」という説もあるのですが、相手を思って自分がやせる思いをするという言葉です。私も自分の勤務する学校では相手のことを思いやるということは想像力を働かせるということなので、折にふれて想像力を働かせた生活をしようと声をかけております。そういうことをしながら思いやりの心を育てていきたい。本当に、大人になっても居場所があるような、地域に出て参画していけるこどもを育てるために、小中学校でもがんばってまいります。

大谷議長　ありがとうございました。

(6)その他

■図書館見学と図書館リニューアル後の活用について

昨年度、一昨年度は、1回目の会議のときに社会教育委員の意見を伺って教育委員との意見交換会を開催したが、今年度は、図書館見学と図書館リニューアル後の活用について意見を頂戴する場を持ちたい。改めて日程をご連絡する。

■第68回全国社会教育研究大会大阪大会の案内について

10月28日（水）～30日（金）に大阪で開催。8月21日(金)までに生涯学習課に参加申込書を提出いただきたい。

閉会